

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立三重平中学校

校長 寺脇 法夫

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

地域の教育力を学校運営及び教育活動に活かすことができるよう保護者や地域の方が主体的に参画・支援できる仕組みを整え、地域・家庭・学校が連携・協働し、学校づくりビジョンに掲げる「笑顔とあいさつあふれる学校」の実現を目指します。

また、四日市版コミュニティスクールとしての取り組みを進めることにより、三重西地区・神前地区にまたがる本校の校区に、地域・家庭・学校が一体となって生徒たちの健全育成を図るための子ども支援ネットワークの構築に努めていきます。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（1）「学習意欲の向上」の取組

○地域子ども教室の開催

・本校の課題の一つである学習環境が整わない生徒たちに放課後の学習支援の場を提供し、学習習慣の定着を図り、学習意欲の向上を目的とする「地域子ども教室」を次のように開設しています。

①三重四丁目集会所での「地域子ども教室」

中学校の職員会議・研修会などで部活動のない月曜日15:30～17:00
（今年度はコロナ禍の影響でほぼ中止）

②中学校学習室での「放課後教室」

・定期テスト週間等平日 週2～3日
（不定期）16:00～17:00



コロナ感染症の影響で回数を週1日に減らしたこともあったが、受験前には3年生の生徒が多く参加するなど、毎回10～20人ほどの生徒が参加し、学習に取り組んでいました。

③「夏休み・冬休みの地域子ども教室」（コロナ禍の影響で中止）

学習の進め方は、生徒たちが自分の学習したい教材に取り組み、スタッフが質問に応じながら学習の指導・支援を行う形態をとっています。今年度も全年を対象とし、生徒の様々な学習状況（日本語が苦手な外国籍の生徒等）に合わせた支援をしていただきました。

子ども教室が、単なる学力UPの場ということだけではなく、まさに生徒たちの居場所、そして地域の人々とのふれあいの場ともなっており、普段学校で

は見せないような生徒たちの姿をみることもできます。

○ 漢字検定の取組（８月：コロナ禍で中止）

漢字検定は、比較的容易に取り組める資格試験であることから家庭での学習習慣の定着をねらい、実施して７年目を迎えました。中学生に限らず、小学生からその保護者にも対象を広げ、参加人数が年々増加し、今年度は３３人の受験予定でした。

（２）地域との交流

○ 高齢者との交流「より曾井サロン」（コロナ禍で中止）

例年福祉委員会は活動の一環として、神前地区社協主催の「より曾井サロン」に参加し、夏休みに交流を行っています。今年度は感染リスク等を考慮し参加を断念しました。

○ 地域行事への参加「大日山ふれあい事業（里山保全活動）」「三世代交流フェスタ」（いずれもコロナ禍で中止）

毎年１２月に神前地区社協の主催する「大日山ふれあい事業（里山保全活動）」に部活動単位でボランティアとして参加しています。

また、三重西地区の活性化と地域の一体感の醸成を図るため、平成２６年８月に「三世代交流フェスタ」が企画され、三重平中学校ＰＴＡも毎回参加しています。三世代交流という趣旨から本校ＰＴＡはこのイベントに出店するブースの運営にボランティアとして参加する生徒たちを募集し、生徒たちと共に事前の準備から一緒に取り組む予定でしたが、昨年度から続けてこの行事自体が中止になってしまいました。

○ 地域防災リーダーによる「防災教室」

地域防災リーダーの方に来ていただき、防災学習を行いました。コロナ禍の影響で、アルファ米を三重西地区自治会から提供していただいて行う炊き出し訓練は中止になりましたが、防災倉庫の見学をし、保管されているリヤカーや簡易トイレを実際に組み立てたり、ロープワークなどの訓練に参加させていただきました。

ＣＳ委員長からは「大きな災害が発生した時に、地域の働き手として中学生の活躍が期待されている」という話もしていただき、多くの生徒がそのことを改めて自覚できたようでした。



○地域の花壇整備

生徒会の福祉委員会を中心に、自治会長をはじめ数人の地域の方々の指導を受けながら団地内の幹線道路沿いの花壇にサルビアなどの花を植え、その後には他の数名の方々も合流し、近くの公園でのラジオ体操にも参加しました。



3 今後に向けて

「学習意欲の向上」への取組として、地域子ども教室の定期的開催に努めてきました。地域子ども教室は本校コミュニティ・スクールの活動の目玉であり、生徒たちの「居場所」としての役割を担うことも大きな意味があると考えます。

今年度は、コロナ禍の影響で開催回数が大きく減ってしまいましたが、生徒たちの学力や学習意欲の向上だけではなく、この取り組みを通して生徒たちと地域スタッフとの関りは確実に「地域の縦のつながり」を生み出し、さらに広がりつつあると言えます。

次年度も例年通り5月当初から全学年を対象に参加できるように計画しています。

昨年度の生徒アンケート（全学年）「あなたは地域の行事や活動に参加していますか」の問いに対して、「あてはまる」「概ねあてはまる」と回答した生徒は、一昨年を下回る60%弱でしたが、今年度はさらに下がり、50%弱となってしまいました。コロナ禍により様々なイベントが中止になった影響は大きかったと考えられますが、この状況について、運営協議会では、「今後は、密にならないような工夫もし、地域の大人の協力体制も強化しながら、生徒たちにあらゆる機会に呼びかけて、コロナ禍であってもできるだけ多くの生徒に地域との交流活動に参加してもらい、『地域に貢献している』ことを感じさせ、自己有用感を高めさせたい」との意見が出されました。

生徒たちは、小学校の頃から地域との交流・地域からの支援をいただきながら成長してきています。現在は、コロナ禍で地域との交流の制約は大きいですが、「コロナ禍であってもできるところから」「できる形」で地域との交流を進めていく予定です。

そして、災害時等いざという場合に、中学生が活躍できるよう、日頃から地域とのふれあいを深め、つながりをつくっておきたいと考えます。1年生が地域の人と防災教室を行いました。こうした取組が大切であり、今後も継続していく予定です。